

JBC NHK杯第56回全日本選抜選手権

5月19~21日 / 新狭山グランドボウル

男子 座波政斗 女子 太琳華 選手 沖縄県勢が男女アベック優勝



▲「チャンスはありながら勝ち切れないで悔しい思いをたくさんしてきたので、それを晴らすことができた」と座波選手
▶昨年暮れのプリンスカップではベストアマを獲得した太選手「ちょっとずつ成長できているかなと思います」

新型コロナウイルス感染症が5月8日に2類相当から5類に引き下げられて、このNHK杯がJBC主催の初めての大会となった。入場制限がなくなり、マスクの着用も任意となるなど、コロナ前の雰囲気によく近づくなか、男子は座波政斗選手、女子は太琳華選手の沖縄勢が、男女アベック優勝を飾った。

今月の表紙

男子優勝・座波政斗選手

予選1回戦からスコアをまとめることができ、気持ちに余裕が持てた。3・4位決定戦の10フレは、連続のメッセージャーでびっくりした。優勝決定戦もその勢いそのまま入れた。また太選手の優勝を見て、自分も勝てばアベック優勝だと思って、なんとしても優勝したいという気持ちになった。少しキャリアダウンしていたので、奥がくるボールに替えたけど、その判断もよくて、思いどおりの打球ができた。小さいころから見ていたNHK杯を優勝することができて本当にうれしい。

女子優勝・太琳華選手

今回はスベアの調子はいまひとつだったけど、持ってくるべきところでストライクを持ってこれた場面が多かったと思う。3・4位決定戦の1フレは、体が縮こまって外ミスをしてしまいガターになったけど、そのあとは開き直って投げることができた。優勝決定戦は、左レーンが奥の曲がりを生かして投げたけど、右レーンは割れそうだったので曲げないように投げた。まさか自分が優勝できるとは思っていなかったけど、男女とも沖縄同士で優勝できたのがとてもうれしい。

男子

出場資格を有する161選手が参加した男子は、今春から高校(青森・千葉学園高)の教員になったばかりの西山響選手が、予選から準決勝までの21Gを4889で1位、予選1回戦でハイシリーズ賞となる812を叩いた浅海恒成選手(愛媛)が4869の2位、ユースナショナルチームに在籍する高校3年生(沖縄県立首里東高)の座波選手が4824で3位、ナショナルチームでもエース格に成長の斉藤翔選手(学連・同志社大学)が4754の4位で決勝エリミネーターに進んだ。ちなみに1、2位の2人は、ともに左の両手投げだった。



▲3・4位決定戦の10フレ2投目は「きたと思ったけど…、日ごろの努力不足かな」と斉藤選手

3・4位決定戦は、4名が1Gを投球、上位2名を優勝決定戦に選出する。西山選手が4フレからの6連発でまず抜け出した。残る1枠は座波選手と斉藤選手の争いとなったが、斉藤選手が10フレ③④⑥⑦を残して切れたのに対し、座波選手は1、2投目ラッキーなピンアクションもあってダブルで斉藤選手を4ピン差退けた。

優勝決定戦は、西山選手が1フレ⑦をカバーミス、2フレは②④⑥⑩と割れて連続オープン。「3・4位決定戦とは全然違う緊張感で、手汗がびっしょりだった」と西山選手。対する座波選手は2フレからターキーで大きくリード。その後も波に乗れない西山選手を225:165で下した座波選手が、沖縄から初の選手権者に輝いた。

女子

110選手が出場した女子は、準決勝最終Gに255を打った太選手が4530で1位通過、2位に4524の石本美来選手(広島)、3位に4504の入江菜々美選手(三重)と、実績十分のナショナルチームメンバーの2人が続き、最近進境著しい高校生(神奈川県立綾瀬西高)の崎山穂花選手が4495の4位で決勝進出を決めた。

3・4位決定戦は、ガターでスタートの太

選手だが、3フレからフィフスと挽回して1位で通過。残る1枠は、男子同様10フレ勝負に持ち込まれた。スベアでもオーケーの石本選手は「しっかり投げたけど刺さって」④⑨のスプリットでオープン。9フレのストライクをオールウェーにつなげた入江選手が、石本選手を4ピン逆転して勝ち上がった。優勝決定戦は、太選手がター

キースタートで先行。入江選手が5フレから初のダブルを持ってくると、太選手は7フレ②⑩と割れてオープンを作るが、入江選手も③⑥⑩をカバーできずオープン。さらに9フレ、太選手が②④⑤のスベアをミスると、入江選手は③④⑥⑦のスプリット。10フレのダブルで突き放した太選手がビッグタイトルを手にした。



▲3度目の優勝はならなかった石本選手「10フレもしつかり投げた結果、やれることはやりました」



▲「ターキーで生き返ったかなと思ったけど…でもいい経験になりました」と崎山選手



▲ボウリング部の顧問も務める西山選手は「これからは指導者の方に重点を置きます」



▲初めてのTV決勝に「緊張で震えが止まらなかった。悔いが残る」と浅海選手

男子決勝エリミネーター

| | | |
|-------|-----|-----|
| 西山 響 | 243 | 165 |
| 浅海 恒成 | 179 | |
| 座波 政斗 | 233 | 優勝 |
| 斉藤 翔 | 229 | |

女子決勝エリミネーター

| | | | |
|--------|-----|-----|----|
| 太 琳華 | 224 | 200 | 優勝 |
| 石本 美来 | 195 | | |
| 入江 菜々美 | 199 | | |
| 崎山 穂花 | 171 | 187 | |